

おおがわら

議会だより



第166号

令和5年2月1日

QRコードから議会の情報をご覧ください

大河原町議会



鼓笛引継式
令和4年12月14日
(大河原小学校)

小学生の議会傍聴	②③
議案審議(11月・12月)	④⑤
議会報告会	⑥⑦
町政への提言	⑧
その後どうなったあの提言	②②
町民の声	②③

小学6年生 初めての議会傍聴



12月7日、8日の2日間、授業の一環として町内の小学6年生全員が、議場内で一般質問を傍聴しました。町長や各課長と議員の議論に緊張した表情で聞き入り、真剣な様子でメモを取っていました。

感想を寄せていただきましたので、一部を紹介します。



大河原小学校

私は、今回見学させていただき、少ない時間でしたが大河原のことを聞くのはすごく自分の身になったと思います。

たくさんの意見が挙がっていましたが、議長さんなどはつかれないのかなあと思いました。見学が終わった時間きたいと思いました。

次は家族と来たいと思いました。傍聴させていただきありがとうございました。

大河原小学校

私は初めて議会を見学しましたが、難しい話ばかりで話に追いつけないところもありましたが、私達に身近なことについて話しをしてくれていて自分の考えももつことができました。

今回議会を見学して、大河原町の問題について考えるいい機会になりました。今回は議会を見学させていただきありがとうございました。

金ヶ瀬小学校

議員さんが高い者や障がい者のためにたくさん発言していて、その発言でその人たちが助かったりすると思うと、すごく大きなことをしている人たちなんだなと思いました。

町のことをたくさんの方がいろいろな立場から見て話し合いをされていてすごく聞くのがおもしろかった。

大河原南小学校

- 話しているのが建物全体に放送されているのがしらなかった。
- たくさんの方が話し合っている事が分かった。
- 議長や町長などたくさんの役割があった。

大河原南小学校

- 部屋の中がいがいと暑かった。
- 話す時に、手を挙げないとためな事が分かった。
- 見た事がある人がいた。
- 話す時に、タイマーがとまっていた。
- 疑問：タイマーは何のためにあるのか。

金ヶ瀬小学校

お互いの立場から意見を言い合い、質問などをしながら話し合いをしていた。町の事について議員や町長などが話し合っていて自分たちの町についてしっかり話し合われていると実感して少し安心した。

もっとカヤガヤ話し合っていると思っていたけど議長に指名された人だけがしゃべっていた。

みんなの疑問 Q&A

Q 何分間話し合いをして何分休けいなのかを教えてください。

A 区切りにもありますが、1時間ぐらいい会議をして、10分ぐらいい休憩します。

Q 議員さんが意見を言うようなものが議長さんのとなりくらいにあつたんですけれどもあれはなんのためにあるものなんですか。意見を言う時間は決まっているんですか。

A 質問する議員が発言できる時間が30分なので、その時間を表示しています。

Q 見ている議員の人たちは何をしながら見ているんですか。

A 質問や答弁に矛盾や問題ある発言がないかチェックしたりしています。



12月会議

新たな課が新設

- ◆スポーツ町づくり推進課
- ◆政策企画課

特集はP-18、P-19

条例改正で役場に新しい課が新設

●スポーツまちづくり推進課（略称：スポまち推進課）
スポーツを活用した元気なまちづくりを目指す。今後は学校体育以外のスポーツに関しては町長が管理、及び執行する。

●政策企画課（企画財政課から名称変更）
デジタル政策推進室が設置され、デジタル通信技術による情報発信を行う。

●子ども家庭課に「子ども家庭総合支援拠点」を設置予定。子育てに関してきめ細やかな支援を目指す。



総合型地域スポーツクラブの設立にも期待が高まる。



デジタル政策推進室の設置により、今後更なるデジタルトランスフォーメーション化が進むと期待される。よりスピーディーで正確な情報発信を望む。

令和4年度一般会計補正予算（第10号）

- ふるさと寄附金の増額に伴い業務委託料の増額 5億3900万円
- 稗田第2雨水ポンプ場にあるポンプ1台を取り替え 60万円
- 白石川右岸にドックランが完成することから、案内看板を設置 35万円

議案

合計11件が賛成多数で可決。

人事

農業委員会委員9名の任命に賛成多数で同意。

令和4年度一般会計補正予算（第11号）

- マイナンバーカード申請支援業務委託料 141万2000円

結果

一般会計補正予算第10号、一般会計補正予算第11号、歳入歳出合わせ10億3003万3000円を追加。よって一般会計歳入歳出総額は112億7762万8000円。



令和5年1月23日から3月末まで、町内4箇所の郵便局でマイナンバーカード申請の手続きが可能に。

討論

〔反対〕 中村 淳
議案第52・53・54号
議会における議案審議が未成熟である。議会軽視と断じざるを得ない。

8月に教育委員会、11月にスポーツ関係団体等に方向性と見解を求めている。しかし、議会に対する報告及び説明は、12月議会招集日。あまりにも直前で、十分な議論がなされていないため、本議案について反対。

〔賛成〕 佐久間克明
議案第52号
全員協議会においてスポーツに関することを町長部局に移行することによって、町で期待する効果について説明があった。

業務量が増え多様化する行政業務の中においても、健康を通じた町民サービスの向上に努めるとしている。結果を出していく必要があることから賛成。

〔反対〕 大沼 常次 議案第53号

本町役場における組織改編に関わる議案であるが、執行部より提案説明があったのが12月1日であり、本口、12月9日、本議案案に対する審議は十分に尽くされたとは言えず、更なる熟考された議論審議を求むる。よって本会議における表決に反対する。

〔賛成〕 佐久間克明 議案第53号

全員協議会で「課を新設することによりスポーツ部局はもろろん、町長、企画部局の関与のもと、まちづくり、介護、福祉、経済振興など、幅広く課が連携して進める必要があり、地域をあげて取り組むことが不可欠」と説明された。議会に対しても取り組みについて随時説明、共有いただくことを期待し賛成とする。

議決責任の明確化

議決結果	議員別表決結果一覧														
	岡崎 隆	大沼 忠弘	佐藤 巖	秋山 昇	万波 孝子	山崎 剛	佐藤 貴久	丸山 勝利	高橋 秀男	須藤 慎	佐久間克明	高橋 豊	大沼 常次	中村 淳	佐藤 暁史
大河原町教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大河原町課設置条例等の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大河原町スポーツ推進審議会条例及び大河原町体育施設条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〔表決の区分〕 投：投票 ○：賛成 ×：反対 退：退席 除：除斥 欠：欠席 議：議長なので表決に加わらず

※賛成が分かれたもののみ掲載。特別会計・企業会計については全会一致で可決した。

11月会議

電力・ガス・食料品等の価格が高騰 緊急支援を

行政報告

東北初の受賞「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2022」を受賞。
[Well-Being] なまちづくりの実現で、健康で元気なまち大河原を目指す。パークゴルフ場の完成に町民の期待が高まる。



令和4年度一般会計補正予算（第8号）

- 非課税世帯等への生活支援として一世帯あたり5万円を給付 1億1000万円
- 非課税世帯以外で家計が急変した世帯へ5万円を給付 250万円
- 令和5年度に小中学校に入学する児童一人につき5万円を給付 2250万円

結果

歳入歳出それぞれ1億5559万4000円を追加し、歳入歳出予算の総額を102億3535万5000円とした。



小中学校への入学準備で保護者の負担が増える。できるだけ早急な支援を。

各会場で"意見"百出 意見 要望を町政に生かす

3会場合わせて 36名の参加者

11月12日(土曜日)の午後6時から町内の3会場に分かれて「議会報告会」が開催されました。3会場合わせて36名の方々に参加していただき、議会や役場に対する意見、要望がたくさん寄せられました。

各会場で出された多くの意見、要望の中から一部紹介いたします。

会場	会場名	参加者
A会場	中央公民館	14名
B会場	駅前コミュニティセンター(オーガ)	8名
C会場	金ヶ瀬公民館	14名

- ◆ NPOに関して議会としてどのように方針をたてるのか。
- ◆ 議員には、町のために、執行部の行動を監視して間違いを正せるようになって欲しい。
- ◆ タブレットが子供たちに貸与されているが、家庭でのWi-Fi環境のない家庭にはどのような配慮がされているのか。
- ◆ できれば総合体育館、えずこホールに外付けのトイレがほしい。
- ◆ オリンピックが開催されたのに、クロスカントリーが中止などおかしい。準備してきた人のことも考えるべき。
- ◆ 金ヶ瀬公民館は中央公民館並みに土足で入れるような施設にしてもらいたい。

- ◆ 下水管の内面コーティング工事が行われているが、根本的に口径が不足。大雨で雨水が入ると家庭の下水口から逆流する。気候変動で降る量が変わる。今後は、余裕をもったものに交換を望む。
- ◆ 冠水した場合逆流でマンホールの蓋が外れ、非常に危険。ストッパー付きの蓋への交換も望む。
- ◆ 大河原を安心安全な町にして頂きたい。桜町は、前の台風19号災害で80件を超える床上床下浸水が起きた。地盤の低い地域の浸水対策に予算を振り分けて欲しい。目に見える改善をお願いしたい。そのためには、今回のこの会のように各地区の困り事を吸上げる機会が必要。
- ◆ コロナ感染者の数が県内市町村ごとに発表しなくなったが、町の感染者が分からなくなりむしろ不安になることもある。
- ◆ ワクチンが有料になったら町からの補助はあるのか。
- ◆ 子ども食堂の運営実態はどうなっているのか。
- ◆ 小島の公園にトイレの設置を望む。

※意見・要望に対する回答は、後日議会ホームページに掲載します。

- ◆ 産業高校が開校する。駅前の人の流れが増える。通学路が人でいっぱいになるのではないか。安全対策はできているのか。柴田町では歩道を広げるなど対策をした。
- ◆ 白石川右岸河川敷等整備事業について国費、県費等含め、令和8年度の完成までに17億円が費やされる予定。完成時には、30億円ぐらいになるだろうという事業費。大規模事業評価審査の対象だと思うが、議会に報告されているか聞く。にぎわい交流拠点施設とは、何を作るのか。道の駅の代替え施設なのか。
- ◆ 側溝の蓋を設置する場合、舗装工事の繰り返しで路面の高さと側溝の高さが合っていない状況で蓋を設置しているので、段差ができて危ない。対応願う。(中島踏切付近)
- ◆ 近くにある公園は、ある程度の広さを持った公園ではあるが、ブランコや滑り台はあるものの大型遊具がない。公園が子どもたちの遊び場になるためにも複合大型遊具を整備してほしい。
- ◆ 花見の時に客が増え、トイレの利用者が増えるため、巡回などに課題はないか。

議会報告会の課題

コロナ禍により3年ぶりに開催された議会報告会ですが、今回も議会を取り巻く課題が浮き彫りになった報告会でした。

- 参加者数は有権者19,365名の0.2%にとどまり、19年の32名よりは若干は多いものの、まだまだ少ない。広報の問題なのか、あるいは町政に対する根本的な意識の問題なのか、議会として十分に検討して次回の報告会に生かしていきたい。
- 3会場とも参加者はシニアの方が圧倒的に多く、20代~40代の方がほとんどいない。また、女性の参加者も少ない。
- 参加者から寄せられた意見・要望は「町政報告会」に提言される内容が多く、議会報告会では何を主眼として開催されるのか、焦点化が必要である。



参加者の多くは男性のシニアの方(金ヶ瀬公民館会場)



どのようにしたら女性の参加が増えるのか(中央公民館会場)

町政への提言Q&A

一般質問とは、町長や教育長に対して事務の執行状況や将来に向けての考えなどを問い質すもので、今回は9人の議員が行いました。

- 高橋 芳男 P.9
 - 高齢者ドライバーに運転補助装置の補助を
 - 学校での児童(低学年)の更衣場所の確保について
 - 带状疱疹予防接種の費用助成の導入を
- 万波 孝子 P.10
 - 新型コロナウイルス感染「第8波」対策について
 - 「福祉作業所さくら」に送迎車の配置を
 - 小・中学校の給食無償化について
- 高橋 豊 P.11
 - 随想契約について
 - Jアラートについて
- 大沼 忠弘 P.12
 - 消防行政について
 - 町のブランド力向上につながるPR戦略について
 - 中学校の休日部活動指導の地域移行について
- 佐久間 克明 P.13
 - 町と農業のかかわり方
- 須藤 慎 P.14
 - 集会所及び生活センターの老朽化等について
- 中村 淳 P.15
 - 学校での挨拶教育について
 - クロスカントリー大会の中止について
- 大沼 常次 P.16
 - 大河原クロスカントリー大会中止にかかわる経緯と主催自治体の責務について
 - 白石川右岸河川敷整備事業の進捗確認について
 - 中学校の部活動の地域移行の進捗確認について
- 丸山 勝利 P.17
 - 高齢者支援と対策について

アクリル板を設置しているため、表情が見えにくい場合があります。内容は、大河原町議会ホームページ内の「インターネット議会配信」で視聴できます。(https://ogawara-town.stream.jit.co.jp/) 各一般質問の録画は、QRコードからご覧いただけます。



今後協議していく

運転補助装置の補助を

高齢者運転



高橋 芳男



踏み間違い防止に大きな効果が期待できる

高橋 75歳以上の高齢者ドライバーの踏み間違い事故は、2020年時点で2080件発生していると言われている。高齢者ドライバーがなかなか免許を返納で

きない理由は、生活の「足」がなくなり、生活用品等の調達に非常に困難となるからである。本町でも高齢者ドライバーの講習を進めるとともに、踏み間違い

など防止する運転補助装置の助成を進めるべきだと考えるが、どうか。本町では、対策として自動車販売店と連携し、安全運転支援装置装備車等の利用促進を目的とした啓発活動や広報誌等による周知活動、70歳以上のかたに対する高齢運転者マークの無料配布を行っている。今後、高齢者ドライバーに対し運転補助装置の購入及び設置助成、講習の実施については、急速に変化している高齢者ドライバーを取り巻く交通環境を注視しながら、有効な施策を実施するため、関係機関や団体と協議してい

町長 本町では、対策として自動車販売店と連携し、安全運転支援装置装備車等の利用促進を目的とした啓発活動や広報誌等による周知活動、70歳以上のかたに対する高齢運転者マークの無料配布を行っている。

高橋 文部科学省によれば、3年生でも水泳の授業時に男女一緒に着替えをする学校は18・93%、体育の授業時では44・26%にものぼる。文部科学省の小学校施設整備指針には、児童更衣室は児童に利用しやすい位置に男女別に計画するよう明記されているが、明確な基準は設けられていない。各校の現状や対応をアンケート等で収集し、協議すべきと考えるが、どうか。

高橋 国立感染症研究所によると、日本人成人の90%以上はウイルスが体内に潜んでいるという。带状疱疹は、80歳までに約3人に1人が発症に至るといわれている。東京都文京区では令和元年10月より、带状疱疹予防接種費用の一部を助成しているが、本町でも助成の実施をするべきと考えるがどうか。

町長 現段階において、費用の助成は考えていないが、今後、带状疱疹ワクチン接種の位置づけについて、国の動向を注視し、定期接種となった際には、接種費用助成の検討を行っていく。

教育長 現在、大河原小学校は4年生以上、金ヶ瀬小学校と南小学校は3年生以上が男女別の着替えを行っている。発着段階を踏まえた措置を講じている。なお、現在教室での着替えに抵抗がある児

一般質問

子育て支援

学校給食の無償化を

現在のところ考えていない



万波 孝子



総務課長 周知徹底する。検討する。

万波 コロナワクチン接種一部自己負担導入の動きがある。接種率の低下が懸念される。国に無料を訴えていくべき。

町長 国の動向を注視し対応したい。

障がい者福祉作業所に送迎車の復活を

万波 以前送迎車が廃止になった理由は、サービス低下と言えないか。

町長 当時社会福祉協会の専任運転手が送迎していたが、平成21年度で退職。勤務時間の問題や本来の業務ではないことや車両の老朽化も重なり24年にアマンドタクシーの開始もあり廃止した。

万波 月の収入約7000円にに対し、アマンド利用料で4000円かかる。どう受け止めるか。保護者も高齢化しており、送迎車の要望は家族からもでている。

総務課長 所長や家族会に課長は直接の要望はない。現状では難しいが家族会議で意見を聴く。

万波 町内に障がい者入所施設の誘致の見通しは。

町長 仙南に5施設あり、十分対応できる。



町内各学校へ1日約2000食届けられている

万波 学校給食を無償化する自治体が多い。全国に広がっている。県内では本町より人口が多い富谷市、栗原市では来月4月から小学校全員を対象に。利府町は小6・中3を対象に実施する。憲法26条「義務教育はこれを無償とする」としていることから本町も実施すべきでないか。

万波 給食費小学校は月額4188円、中学校月額4854円。多子世帯ほど保護者負担が重い。どう考える。

町長 自治体間の財政格差が様々ある中で、これを優先的にやる難しいと考えている。

キットを無料配布している。検討の考えは。

町長 対応を検討することはやぶさかではない。

教育長 学校給食法第11条「保護者の負担とする」規定や、財源を恒常的に確保することが困難であること

万波 無償化した場合の経費を一度試算してみてもどうか。

町長 大阪府ではコロナとインフルエンザの同時流行を懸念し、9歳以下の子どもがいる家庭へ抗原検査

健康推進課長 周知に努める。

万波 町は電話申請があれば陽性者などに食料品を支給している。更なる周知を。また、おかゆ、飲料も加えてはどうか。

万波 無償化した場合の経費を一度試算してみてもどうか。

町長 自治体間の財政格差が様々ある中で、これを優先的にやる難しいと考えている。

万波 大阪府ではコロナとインフルエンザの同時流行を懸念し、9歳以下の子どもがいる家庭へ抗原検査

町長 協議の専任運転手が送迎していたが、平成21年度で退職。勤務時間の問題や本来の業務ではないことや車両の老朽化も重なり24年にアマンドタクシーの開始もあり廃止した。

万波 無償化した場合の経費を一度試算してみてもどうか。

町長 自治体間の財政格差が様々ある中で、これを優先的にやる難しいと考えている。

万波 大阪府ではコロナとインフルエンザの同時流行を懸念し、9歳以下の子どもがいる家庭へ抗原検査

町長 協議の専任運転手が送迎していたが、平成21年度で退職。勤務時間の問題や本来の業務ではないことや車両の老朽化も重なり24年にアマンドタクシーの開始もあり廃止した。

契約

随意契約の内容公開を

他自治体をもて検討したい



透明性のある契約を

随意契約は、競争に付する手間を省略することができ、しかも相手方となるべき者を任意に選定するものであることから、特定の資産、信用、能力等ある

業者を選定することができるので、その運用が適切であれば、その長所を發揮し、目的を達成することができ。しかしながら、地方公共団体の契約は、競

争入札が原則であり、また、特定の業者との間に発生する特殊な関係から単純に当該業者と締結するのみではなく、適正な価格によっておこなわれるべき契約が不適正な価格によっておこなわれる懸念もあることから、安易に随意契約とすることは慎まなければならないと考えて質問する。

高橋 本町に随意契約ラインはあるか。

町長 法令根拠や解釈が統一かつ公正に行われることを目的にガイドラインを定めている。

高橋 契約先の業者選定基準及び資格審査はどのようにしているか。

町長 契約の性質又は目的が競争入札に適さない契約、競争入札に付することが不利なものなどに合致しているか担当課にて業者を選定し、役場内の契約業者等選定委員会で資格審査を行う。

高橋 他の自治体では随意契約の理由書を公開しているところがある。本町でも公開すべきではないか。

副町長 他の自治体の状況をみて検討したい。

町長 国・県の動向を注視しながら実施にむけて協議する。

高橋 本町の屋外スピーカーより流れないのはなぜか。

町長 本町のスピーカーは防災行政無線と連動していない。設備の更新には費用がかかる。



高橋 豊



Jアラートについて

現在弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合には全国瞬時警報システム（Jアラート）を通じて緊急情報が流れている。本

一般質問

消防行政



大沼 忠弘



消防団員用アプリ導入は

消防署と協議が必要

大沼 休日は部活動をどう考えている

休日部活地域移行

については、従来のお祭りを100周年記念事業と位置づけ、特別イベントの企画など、一年を通じた観光キャンペーンとしての事業展開を予定。マスメディアによるPR効果等も考慮し、計画を取りまとめられている。

町長 休日に行う良きもあることから、生徒、教員ともに負担のない範囲で活動することは必要であると考え。外部指導者の確保等、さまざまな課題があるが、地域移行に向けた取り組みを段階的に進めていかなければならないと考えている。

大沼 令和2年4月1日から、消防団員がやむを得ず、自家用車（原付含む）を使用し、被災や事故にあつた場合、普通地方公共団体が行う相互救済事業で補償される消防団員のマイカー共済がスタートした。本町での対応は。

町長 団員に個人的負担を生じさせることなく、安心して当該活動に従事してもら

うことは有意義であり、ひいては団員の確保にも資するものと捉えている。補償内容を十分に精査しながら、加入手続きを進めていく。

大沼 消防団員用防災アシストアプリ（S.A.F.E.（セーフ））の情報の可視化により消防団活動を支援するものだが、現在のところ普及段階であり浸透率はさほどではないが、導入について検討して

みでは。

町長 地域防災力の向上につながるものと捉えているが、情報精度の高さや多重化などの課題もある。導入には消防署との協議が必要と考える。

本町のPR戦略

大沼 桜植樹100周年に向け、現段階で公表可能な行事予定等あれば示して欲しい、また告知や広報計

画は。

町長 来年は高山開治郎氏が桜の苗木を植樹してから100年目を迎える記念すべき年。これを契機として記念事業を行うことで、町内外における一目千本桜の認知度拡大と観光客誘致の促進、更には、改めて一目千本桜の保護や郷土愛についての町民の皆様への機運の醸成を目指したい。記念事業の内容に



ICTで消防団をサポート

新しい価値観でかわりを

深くかわりあっていく

農産物ブランド化

町内で農業を営み生計をたてている40代と交流する機会があつた。「目先の利益も大切だが大河原町に生まれ、住み、農業をしている。その意義を形にするた



目指せ「大河原産」

めにも町とかわりを持つて何かを成し遂げたい」という強い共通意識があつた。間違いなく農業においても次世代を担う人材が思いをもつて仕事をしてい

る。「作る農家」と「販路の商業」、「つなぐ・PRする町」の連携が特に個人経営体の多い本町において大切だと考える。これからの時代を見据え、新しい価値観で町と農業のかわり方を考える機会をつくりたい。

町長 個人農家の現状把握と、かわりを持つていくのが。個人農家は各種会議や会合での意見交換や、個別相談で現状把握に努めている。農業に対する思いと、町の物産品ブランドを生むという取組姿勢に感謝し、町も、思いと心意気を大切に今

後にも深くかわつていく。

佐久間 例えば仙南地域地場振興協議会が行う仙台市内での出店の際、「大河原産」として出店してはどうか。

町長 広域的な企画イベントでの「大河原産」出品を始め、生産者が独自に企画イベントをできる仕組みづくりについて行政も一緒に検討していく。

佐久間 「せくらつきー」は本町PRの役割をしっかりと果たさせるだけのキャラクターだと考える。「せくらつきー」の農家バージョンをデザインし、出荷時の箱やパッケージフィルムに使用してはどうか。商品も大切だが、「大河原産」を売ることで町農業ブランド化につながることを考える。

町長 農産物ブランド化の重要性と、「せくらつきー」の役

割も認識している。提案は、「大河原産」のブランド化につながる。魅力的なものと考え。担当課、観光物産協会と連携し、農家の方々の意見を伺いながら考えていく。

佐久間 農業を町の物産とした視点で考えると、商工観光課や給食の時間に生産者が講話するなど、教育部署との連携も密にする必要があるのではないか。

町長 庁舎内各課と横断的な連携を図る。大切なのは生産者の皆さんの「大河原産」のネーミングで参加、出品する強い気持ちや心意気が必要であると考え。生産者の誇りや活力につながるものと考え積極的にかわりと支援に努める。



佐久間 克明



納得し難い理由では

実行委員会の判断による

一般 質問

集会所 整備

B地区に建設を

可能性は大いにある



須藤 慎



て、集会所の更新や集約化等の考え方も整理していく。
須藤 児童館との併設は。
町長 現在のところ、想定していない。

生活センターの老朽化

町長 今後、大規模改修等の要望に伴い、修繕費用の増加が予測される。集会所施設への一元化や複数施設の集約化等について、「公共施設等総合管理計画」及び「長期総合計画後期基本計画」を策定する中で、整備の方向性について検討していくことになる。

上谷一区長・上谷二区長・上谷三区長から町へ「上谷地区集会所の整備に関する要望書」が提出された。(令和3年11月20日付)

須藤 上谷町営2階建住宅跡地売却の進捗状況は。

町長 跡地2地区のうち1地区(写真:A地区)約4790㎡について11月24日から入札公告を開始し、1月17日に入札を実施する予定。残り1地区(写真:B地区)は、今回の用地売却の状況のみ

ながら用地の売却または行政ニーズへの活用等の方針決めでしていきたい。
須藤 地域の要望に応え、残り1地区(B地区)の場所に、上谷地区の集会所を建設すべき。

須藤 「公共施設等総合管理計画」及び「長期総合計画後期基本計画」の策定状況は。
町長 「公共施設等総合管理計画」は、現在策定作業を進めており、令和5年3月に策定予定。「長期総合計画後期基本計画」は、令和5年度から策定作業を進めていく予定。令和6年度から11年度までの計画期間におい

る。
町長 前向きに議論を進めていく。いずれ土地がどこかに必要になるが、B地区が検討されるということについては、可能性は大いにあると考えてい

る。
町長 「公共施設等総合管理計画」は、現在策定作業を進めており、令和5年3月に策定予定。「長期総合計画後期基本計画」は、令和5年度から策定作業を進めていく予定。令和6年度から11年度までの計画期間におい

る。
町長 「公共施設等総合管理計画」は、現在策定作業を進めており、令和5年3月に策定予定。「長期総合計画後期基本計画」は、令和5年度から策定作業を進めていく予定。令和6年度から11年度までの計画期間におい



A地区は売却予定、B地区に集会所を



開催してほしかったな

中村 参加者が少ないとのことだが、例年と比較し、どのぐらい少なく、何人であれば開催されたのか。資料を提示すべきでないか。
教育長 各クラス合計で前回177名参加に対し90名の応募。170名を想定し51%の応募に留まる。

中村 中止により大会にかかわる委託費用は全額返還されるのか。
生涯学習課長 申し込み料と金のうち、要項の作成、ポスターの作成、記念品の作成等、既にかかった経費を除いて返還

挨拶教育

ができているが、学校外になると、減ってしまう。学校としては、地域で知っている人や、知らない人でも挨拶されたら挨拶を返すよう指導しているが、できる子は限られる。基本的な生活習慣については、家庭と一体になり指導を継続していく必要がある。

先日、久しぶりに開催される予定だったクロスカンントリー大会が、参加者が少ないという理由で中止になったことについて質問する。

開かれ、部活動も活発化した今年において矛盾しないか。
教育長 実行委員会が行われた5月時点では、小中学生のワクチン接種率が低いうえ、感染者も多く学校活動に制限があったため、一般の部のみの規模縮小開催を決定した。

中村 これは先日の議会報告会でも出た質問。大会要項に、参加人数による中止の記載は。
生涯学習課長 感染拡大のリスクで開催が困難であると実行委員会が判断した場合、また、自然災害等の部分を要綱として掲載して

いる。
中村 中止により大会にかかわる委託費用は全額返還されるのか。
生涯学習課長 申し込み料と金のうち、要項の作成、ポスターの作成、記念品の作成等、既にかかった経費を除いて返還

中村 感染拡大防止策として、参加者の参加を認めなかったことは、コロナ患者が減少し、様々な大会が

開かれ、部活動も活発化した今年において矛盾しないか。
教育長 実行委員会が行われた5月時点では、小中学生のワクチン接種率が低いうえ、感染者も多く学校活動に制限があったため、一般の部のみの規模縮小開催を決定した。

中村 これは先日の議会報告会でも出た質問。大会要項に、参加人数による中止の記載は。
生涯学習課長 感染拡大のリスクで開催が困難であると実行委員会が判断した場合、また、自然災害等の部分を要綱として掲載して

いる。
中村 中止により大会にかかわる委託費用は全額返還されるのか。
生涯学習課長 申し込み料と金のうち、要項の作成、ポスターの作成、記念品の作成等、既にかかった経費を除いて返還



中村 淳



教育長 各小学校では、学校内では知らない人に対しても多くの児童はきちんと挨拶

ができていないが、学校外になると、減ってしまう。学校としては、地域で知っている人や、知らない人でも挨拶されたら挨拶を返すよう指導しているが、できる子は限られる。基本的な生活習慣については、家庭と一体になり指導を継続していく必要がある。

一般質問

大会中止

大会中止はだれが決めたのか

町の主要ポストの代表委員の判断



大沼 常次



だけの大会にすることになったが想定外の参加者減だった。

大沼 大会開催決定した5月と中止決定した10月で感染者の変動はほとんどない。コロナ感染を中止決定にするための隠れ費にしていたのではないかと参加者が何人だつたら開催したのか。

教育長 コース種目によつては参加者が数人ということもあり、そのような状況で順位をつけることに意味があるのか等を考えた。実行委員会は町で重要なポストに就いている人たちが委員になっている。その人達が判断したことが間違っていないのか。

大沼 参加者が少ない立しないのか。

生涯学習課長 参加者は町内が多い。参加者が何人だつたら開催できると

かの話は想定していなかった。

大沼 大会要項には中止になる際の条件が明記されている。参加者が少ないという理由で大会中止はできないことになっている。

町長 参加者が少なかつたというのにはコロナによる影響があつたと思われる。無理して開催した場合の問題もある。

11月23日に3年ぶりに開催される予定だった「大河原クロスカントリー大会」が参加者の減少とコロナの感染がおさまっていないことを理由に同大会の主催者である実行委員会が大会中止の判断を下した。しかし、町及び教育委員会は同大会の共催者であり、この大会中止決定にどのような関与したのか質問した。

大沼 大会中止前に町長等への事前報告はあつたのか。

生涯学習課長 大会事務局を担っていたNPOアカデミーの理事長、事務局長から報告があり、教育長、副町長、町長に報告及び提案があつた。

大沼 提案の内容は。

教育長 参加申込者数を想定した半数であり、コロナの感染状況を考えると実施できる

状況ではないとの提案を受けた。

大沼 副町長、町長にどのような内容の提案があつたのか。

副町長 教育長から大会事務局のアカデミー側から、同様の提案があつたこと、報告を受けた。その際、最終決定は実行委員会であることを話した。

大沼 大会事務局からの提案に対して教育長及び町長、副町長は同意したのか。

同意ということではないかと、大会実施の判断の可否は大会実行委員会にあることを確認した。

大沼 参加者が少ないというのは大会開催決定時から想定されていたことで、申込期限になって、今さら参加者数が少ないというのは理由にならない。

教育長 子どものコロナの感染が続いていたことで小中学生の参加を見送った。大人

る、高齢者の自宅訪問活動を行っている。また、医療機関につながっていない高齢者を健康推進課と福祉課の保健師が訪問する「高齢者の保健事業と介護予防等の一体化事業」で取り残しのない体制づくりに努めている。

丸山 交通弱者支援のためデマンド型乗合タクシーを運行しているが、令和3年度で運行経費が2661万927円かかつており、1人1回約2088円になる。タクシー運賃では約5・8キロ乗れるが、タクシーより不便なデマンド型乗合タクシーで費用対効果を考えると効率が悪い。デマンド型乗合タクシーを運行して10年が過ぎ利用者や利用場所等データが蓄積されたとと思われるが、周遊バスに切り替えてはどうか。



例に終わった第47回大河原クロスカントリー大会(写真は令和元年度開催時)

カードの周知普及を

誰でも使える。申し出てほしい

救急安心カード

社会環境が整わない中で高齢化社会が進むと痛ましい事故や生きがいを失ってしまいい間らしい生き方、人間の尊厳をもった生き方が難しい社会となつて

高齢者救急安心カード	
氏名	住所
生年月日	性別
既往歴	かかりつけの医療機関
治療中の病名	治療中の薬
アレルギーの有無	医療機器
住居の種類	住所
緊急連絡先	住所
緊急連絡先	住所
緊急連絡先	住所



迅速な救命活動に役立ちます

しまう。本町においても人口減少はかろうじて回避しているが、高齢化が顕著となつて人口減少が訪れ少子高齢化が顕著となつて思われる。町民が健康で生きがいを持ち、安

全で安心して暮らせる大河原町のため、高齢化社会に適したライフラインや環境整備に努めなければならないと思われることから以下伺う。

丸山 ひとり暮らしや老老介護世帯に対する支援と対策は。

町長 ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、高齢者福祉サービスとして見守りを兼ねた配達サービスや緊急通報システム事業、軽度生活支援事業を行なっている。また、民生委員児童委員や大河原町福祉協議会と地域包括支援センターの協働によ

る、高齢者の自宅訪問活動を行っている。また、医療機関につながっていない高齢者を健康推進課と福祉課の保健師が訪問する「高齢者の保健事業と介護予防等の一体化事業」で取り残しのない体制づくりに努めている。

丸山 交通弱者支援のためデマンド型乗合タクシーを運行しているが、令和3年度で運行経費が2661万927円かかつており、1人1回約2088円になる。タクシー運賃では約5・8キロ乗れるが、タクシーより不便なデマンド型乗合タクシーで費用対効果を考えると効率が悪い。デマンド型乗合タクシーを運行して10年が過ぎ利用者や利用場所等データが蓄積されたとと思われるが、周遊バスに切り替えてはどうか。

バス購入や運転手などのインシヤルコストの面からも周遊バスの運行は考えていない。しかし、デマンド型乗合タクシーの運行経費削減などの見直しをしていきたい。

丸山 ひとり暮らしや高齢者などに「高齢者救急安心カード」があるが、緊急時には救急救命に非常に役立つ適切な救命と処置がなされると思われる。基礎疾患のある方などや希望者に周知普及をしてほしいか。

町長 「高齢者救急安心カード」は大河原町の民生委員児童委員協議会の自主事業として行っている。救急時には救急救命に効果があると考えられるので、基礎疾患のある方など希望者は誰でも使えるので申し出てほしい。



丸山 勝利



特集

スポーツを通じた、まちづくりに挑戦。

キーワードは

健康
づくり

人と地域
づくり

新たな魅力
の発信



人づくり
「マウンテンバイク体験教室」



地域づくり・広域連携
「仙南サイクルツーリズム事業」



健康づくり
「ノルディックウォーキング教室」

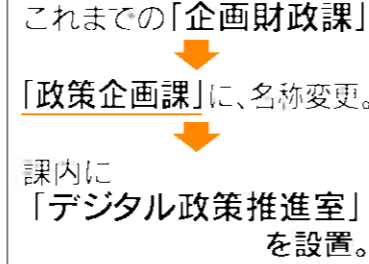


目標

誰もがウォーキング・サイクリング・パークゴルフなどのスポーツを楽しむことに加え、日常での様々な身体活動をスポーツと捉え「楽しみながら健康づくりができるまち」「こころもからだもハッピーになれる」。「元気でポジティブなイメージ」を発信できるまちを実現し、交流人口・関係人口の拡大につなげる。

「おおがわら千本桜スポーツパーク」を活用した「Well-Being」なまちづくりプロジェクト

- 企画財政課「情報政策係」の事務をDXの推進などを追加し、「デジタル政策推進室」を設置。
- 町ホームページの総合調整に関する業務から、デジタル通信技術を活用した情報発信に関する事務を行う。
- 社会人枠で1名の職員を採用し、窓口手続きの一元化などあらゆるデジタル通信技術を活用した情報発信に取り組む。



デジタル政策推進室

- 「これまでの業務内容」
- 情報政策の総合企画及び調整に関すること。
 - 電算システムの運用に係る総合調整に関すること。
- 「改変により新たに追加される業務」
- デジタル通信技術を活用した情報発信に関すること。
 - デジタルトランスフォーメーションの推進に関すること。



課の連携で窓口の一元化



LINE
公式アカウント

町民に迅速な情報提供

「おおがわら千本桜スポーツパーク」を活用した関係人口の拡大と交流拠点の創出による魅力あるまちづくり。

部局移管により各種事業の連携がより一層円滑化され、スポーツを通じた健康寿命の延伸、医療費抑制、人と人をつなぎ支えあう地域共生社会の実現と、地域コミュニティの活性化。

「町の現状と課題」

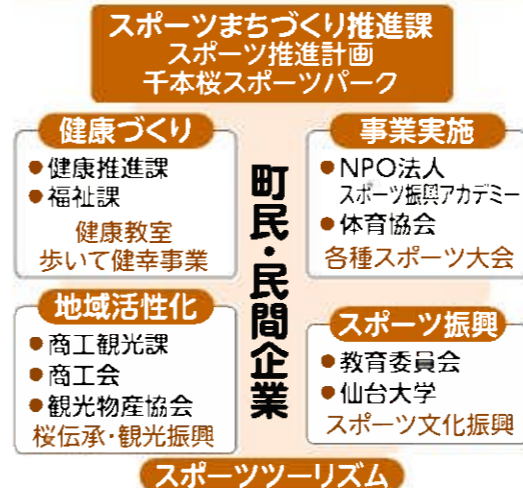
- 平均年齢と健康寿命の差が宮城県で一番短い(平均差1.33歳)。
- メタボ該当率は、宮城県35市町村でワースト5位(28.8%)。
- 40歳から74歳までの特定受診者の健康診断受診率の低下。

これまでのスポーツ推進施策と健康運動教室、保険事業、介護予防等の健康増進事業が連携強化することによる円滑な事業調整。

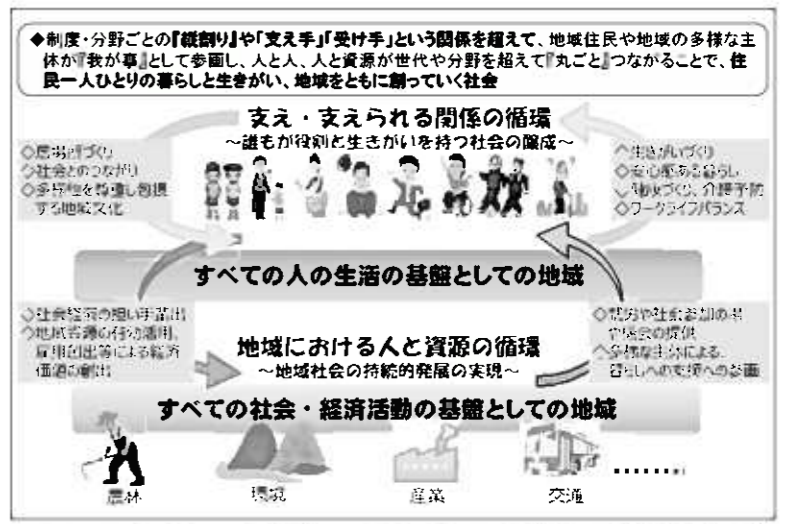
スポーツまちづくり推進課

期待される効果

継続的な取り組みを確保できる体制(図)



※行政・民間・関係団体が一体となり、誰もがスポーツに楽しめる環境を構築



出典：社会福祉法人 大河原町社会福祉協議会 地域福祉活動計画(第2期)

全員協議会

仙南広域事務組合規約の変更

「AZ9ジュニア・アクターズ養成事業」
令和5年度以降も継続
● 事業費
500万円前後
● 2市7町で負担
(人口割)
大河原町の負担額
75万円

AZ9ジュニア・アクターズとは

仙南地域のふるさとを象徴する阿武隈川（A）と蔵王連峰（Z）を共有する2市7町の小学校4、6年生で構成された児童劇団で、平成5年の活動開始から今年で30周年を迎える。



大河原町農業委員会委員の任命について

農業委員会委員9名の任期が令和4年12月末で満了となることに伴い、町長が任命し議会が同意するもの。今回任命された農業委員の任期は令和5年1月1日から3年間。

- ◆今回任命・同意された農業委員（9名）
- 長山 清市氏
 - 鈴木 勉氏
 - 角田貞由美氏
 - 庄司 貞良氏
 - 佐藤 富男氏
 - 松井 誠子氏
 - 鎌田美智雄氏
 - 菅野 正信氏
 - 大宮 孝則氏

町営上谷2階建住宅跡地の売却

11月24日 入札公告開始
1月17日 入札の執行

令和3年度に町営上谷2階建住宅が解体され、売却手続きが進められた。

① A地区
② B地区

まずはA地区から売却を進める。

入札の方法

- 制限付き、一般競争入札。

入札参加資格

- 個人及び法人とする。
- 過去10年以内に3000㎡以上の開発行為の実績があること。

売却の条件

定住者及び児童数増による学校施設等運営の持続を図るものとし

て戸建てを目的とした建設用地とするほか、売買契約後の諸費用は買主負担、地中2m下に残杭182本は撤去せず用地内電柱等は現状のままとする。



委員会活動

総務産業常任委員会

大河原町シルバー人材センターの活動状況について

(1) 令和4年8月9日に提出されたシルバー人材センターの決意と支援の要望についてシルバー人材センター理事長と商工観光課より内容と対応の説明を受ける。

要望の主な内容

- 令和5年度の事業推進のために必要な補助金の確保、インボイス制度導入による影響を考慮した安定的な事業運営が可能な措置を求めるもの。
- 令和5年度の事業推進のために必要な補助金の確保、インボイス制度導入による影響を考慮した安定的な事業運営が可能な措置を求めるもの。
- 補助金については、事業内容の精査を行い、従来同様の予算措置を計画している。
- インボイス制度について、近隣市町との情報共有を図りながら、国の動向を注視していく。

町の考え方

- 令和5年度の事業推進のために必要な補助金の確保、インボイス制度導入による影響を考慮した安定的な事業運営が可能な措置を求めるもの。
- 令和5年度の事業推進のために必要な補助金の確保、インボイス制度導入による影響を考慮した安定的な事業運営が可能な措置を求めるもの。
- 令和5年度の事業推進のために必要な補助金の確保、インボイス制度導入による影響を考慮した安定的な事業運営が可能な措置を求めるもの。
- 令和5年度の事業推進のために必要な補助金の確保、インボイス制度導入による影響を考慮した安定的な事業運営が可能な措置を求めるもの。
- 令和5年度の事業推進のために必要な補助金の確保、インボイス制度導入による影響を考慮した安定的な事業運営が可能な措置を求めるもの。

総務産業常任委員会、文教厚生常任委員会は、11月21日にそれぞれ次の内容について調査を実施したので報告します。

- ① 収入200万円減、支出400万円減
- ② 受注件数が伸び悩んでいる。
- ③ 登録者数
● 男性136名、女性73名
- ④ 会員の訓練
● 以前は職業訓練で前定を学んでいたが、現在は無い。
● 希望する仕事の技能がない場合は見習いから始めることは可能。
- ⑤ 会員不足の対策が急務
● 全戸チラシ配布等で会員数の増加を目指している。

- ① 令和2年度決算と3年度決算の比較
- ② 現状と課題について



文教厚生常任委員会

保健センター及び子育て支援センターの体制について

- (1) 保健センター
- ① 昭和59年竣工、38年経過
 - ② 地域住民に対して健康相談や保健指導、健康診査など地域保健に関する事業を行っている。
 - ③ 令和3年度の利用状況は、平日81%、休日13・4%。
 - ④ 建物の老朽化が進み、今後どうするか方向性が問われている。
- (2) 子育て支援センター
- ① 利用状況（令和4年度）
● みらいのひろば開放 合計3184人。
 - ② 相談利用状況 95件



- (3) 「こども家庭センター」
- 改正児童福祉法により設置が努力義務となる。
 - 妊産婦への支援、サポートプラン作成など支援の充実を図る。
 - 令和6年4月に子ども家庭課内への設置を目指す。

【まとめ】
副町長からこども家庭センター設置の構想が示された。令和6年4月に子ども家庭課内への設置を目指す。また、複合的な施設建設のための政策企画会議が役場で開かれていることから、今後の動向を注視していく。

インタビュー

町民の声

子育てや町に望むことをお聞きしました。

＊プロフィール＊

くさか さとみ
日下 里美さん (小島区)
秋田県出身
【家族】夫、子ども3人(二男一女)
5人家族

核家族でも子育てしやすいまちづくりを

住みやすい町

大河原町は一目千本桜がとても美しく、冬になればイルミネーションが華やかです。駅前も彩り鮮やかに、子ども達も大満足です。もちろん、さくらつきも大好きです。実は引越すまで田舎の町だと思っていました。しかし、住んでみると、生活をするうえで必要な衣食住の全てが、簡単に整う町でした。とても便利なコ

主要都市へのアクセス

とても便利な大河原町なのですが、新幹線の駅やインターがありません。首都圏や地方

託児所を増やして

子育てもしやすい町なのですが、他町と比較すると、出生祝い金が低いと感じられます。移住定住を促進するならば、支援を厚くした方が良いでしょう。かと思えます。私は核家族で両親も近くに住んでいません。共働きで夜勤もしているのですが、夜に少しの間でも子どもを預けることができれば助かります。ファミリーサポートセンターがあるので、急に用事ができた時、預かってくれる施設が少ないと感じます。また雨の日に室内で遊べる環境も整えてほしいと思います。

ンパクトシティだと思います。



3月議会のお知らせ

招集日 3月2日(木)

再開日 3月8日(水)

詳細は議会事務局まで ☎(0224)53-2800

追跡レポート

その後どうなったあの提言

議員が行う提言は、町政にどのように反映されているのでしょうか。これまでの質問の中から、その後の過程について調査・追跡しました。

IT対応 課を越えた組織を



議会でもIT化が進んでいる



広報活動に公共向けLINE@の活用

LINE公式アカウント



提言

行政のデジタル化を推進するため、部門の壁を越えて対応する専門部署の新設、システムエンジニアの雇用など体制の強化が必要。

議員の提言
(一般質問)
令和元年9月
令和4年9月

令和5年
4月より

追跡結果

12月議会において、大河原町課設置条例の一部改正として、企画財政課を政策企画課へと変更し、課内にデジタル政策推進室及びデジタル政策推進係が新設される議案が可決した。

今後さらにデジタル化が進むことを期待する。

提言

町の情報発信といえばおしらせばんやメールなどが主なものであるが、多くの人が利用し、かつ、見落としにくいLINEを使った情報発信をしていくべきでないか。

議員の提言
(一般質問)
平成30年6月
令和3年12月

令和5年
1月現在

追跡結果

町長の施政方針で広報・広聴活動では、「広報おおがわら」、「おしらせばん」、そして町ホームページの充実を図るとともに、町公式ユーチューブチャンネルに加え、町公式LINEを開設するなどSNSを活用し、積極的な情報発信を図って行く。とし、デジタルの推進と相まって導入に向けて動いている。令和5年3月導入予定。

こんな町に住みたらいな



南小学校6年 田口 統千さん

町議会を見学して、やっぱり話し合いのレベルが違うなと思いました。いろいろな人がたくさん発言し、最後に話をまとめていってすごいと思いました。町議会の議題になっていた挨拶について考えました。ぼくたちの大河原南小学校では、毎週火曜日に挨拶運動をしています。挨拶を大きな声でできた人の名前を、昼の放送で紹介しています。これからは挨拶運動を続けて、挨拶をする人が増えてほしいと思います。



南小学校6年 加藤 優希さん

私の理想の町はみんな笑顔で明るく楽しく過ごすことのできる大河原町です。そのためみんながあいさつをしあうことが大切だと思います。今は、地域の方に大きな声で明るくあいさつをする人があまり多くないと感じます。だから、地域であいさつ運動をしたり、呼びかけのポスターをつくったりすると、大きな声であいさつをする人が増えるのではないかと考えました。また、私も大きな声であいさつすることを意識して過ごし、理想の町をつくりたいです。これからの取り組みを通して大河原町をもっといい町にしていきたいです。

頑張っている子どもたち

2022 AJSA(日本スケートボード協会) 東北アマ第一戦 女子3位入賞

大友 琴花菜さん(大河原小学校4年生)

雨の日にも練習できる場所が欲しい。もっと練習することができれば、もっと上手に滑れるようになると思います。と語る琴花菜さん。

オリンピックの正式種目にもなったスケートボード。近い将来、大河原町からオリンピック選手が誕生するかもしれません。夢が広がります。



今回の表紙は



大河原小学校の鼓笛引継式。6年生のすばらしい演奏が終わると、各パートごと、6年生より5年生に引き継がれ、5年生の初めての演奏が披露されました。6年生は5年生に伝統ある大河原小学校の鼓笛を頼むぞと、5年生は任せてください。と聞こえてくるようなすばらしい引継式でした。

(丸山 勝利)

編集後記

昨年の12月に襲った「クリスマス寒波」北海道や日本海側の各県に多大な被害が出ました。テレビの画面では屋根の上に1mもの雪が屋根を覆いかぶさり、雪国に暮らしている方は本当にご苦労が多いものだと痛感しました。半面、太平洋側に位置する、ここ大河原町は朝方に氷点下になり薄氷ははるものの、何気ない毎日を過ごすことができています。

雪が多くて困る人、反対に雪が少ないと困る人、世間にはいろいろな立場の人がいます。諺にもあるように「過ぎたれば」です。政治も気候と同じように中庸が大事です。

(大沼 常次)

編集発行責任者

議長 岡崎 隆

議会広報常任委員

委員長 万波 孝子

副委員長 佐久間 克明

委員 丸山 勝利

委員 大沼 常次

委員 中村 淳

委員 佐藤 暁史